

## 対決！ ノロウイルス vs 次亜塩素酸

## 業界初 PVCLレザー全商品 次亜塩素酸対応

当社は次亜塩素酸に対応するレザー、テキスタイルにいち早く真摯に取り組んで来ました。サンプル帳「FURNISHING LEATHER `15-`17」では業界初 日本初のPVCLレザーの全商品が耐次亜塩素酸となっています。

ノロウイルスはアルコール消毒では死滅はしません。

毎年、ノロウイルスは11月から流行、12月・1月がピーク。そのノロウイルスを死滅させるには、加熱処理(85~90℃で90秒以上)か次亜塩素酸しかありません。加熱処理が出来ない椅子は次亜塩素酸でのメンテナンスが唯一の方法です。



ココで問題なのは次亜塩素酸≡塩素系漂白剤の主成分と言う事。次亜塩素酸に非対応のPVCLレザーでは拭き取った個所が変色してしまう恐れがあります。

どんなレザーが耐次亜塩素酸と呼べるの？

ノロウイルスは濃度1,000ppm(0.1%)の次亜塩素酸で十分死滅するとされています。

しかしながら濃度が濃い方が効果があると言う人間心理や飲食店や病院など日に何回も高濃度に希釈した次亜塩素酸(塩素系漂白剤)で拭きとっていると言うのが実情です。

そのような環境でも安心してお使い頂ける様に当社では「15,000ppm(1.5%)、浸漬し24時間後の色と風合いの変化を見る」と言う過酷な条件で変色しない商品だけを「耐次亜塩素酸商品」とし、その試験方法を特許出願、公開。

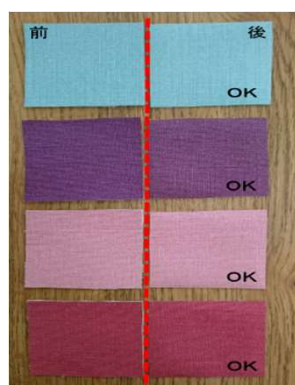
	当社 ※試験方法特許出願中	同業
濃度	1.5% (15,000ppm)	1.0% (10,000ppm)
接触方法	浸漬	滴下
時間	24h	24h
対応数	全数対応	一部非対応

※サンプル帳PVCLレザー対象

過酷な条件での耐次亜塩素酸試験

同業者の中には一部の商品を「10,000ppm(1%)、滴下」の試験で耐次亜塩素酸としていますが、弊社では過去の使用実績によるクレームからこの試験方法では十分では無いと判断しております。

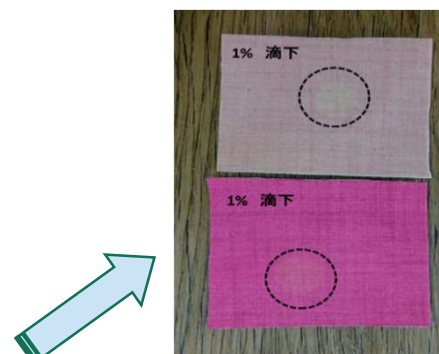
特許出願中の試験法の有効性確認の為に自社品と他社品の比較試験を行いました。※同タイプのPVCLレザー16色を選定し、15,000ppm(1.5%)の次亜塩素酸に24h浸漬



当社品は16色全て目立った変化無し



業界他社品は16色中2色で変色



※同業社が設定の1%滴下の条件でも変色。何故？